

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：27101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01237

研究課題名（和文）写真着彩技術と対話を活用した持続可能な被ばくコミュニティ形成の応用人類学的研究

研究課題名（英文）Applied anthropological research on creating a digital archive toward sustainable community after nuclear disaster

研究代表者

中原 聖乃（Nakahara, Satoe）

北九州市立大学・地域共生教育センター・特任教員

研究者番号：00570053

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：マーシャル諸島の核実験をはじめ、温暖化、日本統治、太平洋戦争といったトピックについての情報を「マーシャル諸島デジタルアーカイブ」としてインターネット上に構築した。インタビューやフィールドワークを実施して情報を収集したが、マーシャル諸島に存在する米国の公文書や写真なども、アーカイブにアップロードした。対面および遠隔でインタビューやフィールドワークの手法についての勉強会や白黒写真のカラー化ワークショップを開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

このアーカイブは今後も継続して更新が行われる予定である。これまで、マーシャル諸島には、一般の人が気軽にオンライン上で見ることのできる核実験に関するアーカイブはなかったが、すでに本アーカイブの制作にかかわった若者の親族をはじめ一般の人からの関心も高い。また、マーシャル諸島の教育機関などから活用したいとの声もある。これらのことから今後は、ローカルに浸透しつつ、教育機関や博物館を通じてパブリックに普及していく可能性もある。

研究成果の概要（英文）：In this study, the Marshall Islands Digital Archive was created. This digital archive contains a wide range of information on nuclear testing, global warming, Japanese rule, the Pacific War, and lifestyle and culture. The Marshall Islands government, the College of the Marshall Islands, NGOs, and the younger Marshall Islanders are involved in this project. Information was collected through interviews and fieldwork, and U.S. documents in the Marshall Islands. In gathering this information, workshops were held to increase interest in the environment and history, including workshops on interview techniques and colorizing black-and-white photographs.

研究分野：文化人類学

キーワード：マーシャル諸島 核実験 環境問題 語り アーカイブ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

申請者は、1998年からマーシャル諸島ロンゲラップコミュニティにおいて、米国の核実験によって被ばくした人々の米国への意識や生活再建の動態に関する調査研究を行ってきた。これまでの調査から、行政による故郷への帰還事業については、批判はあるものの、単に反発するだけではなく、故郷であるロンゲラップをうまく組み込むような暮らしが成り立っていることが分かった。ただし、そうした暮らしについて調査研究して発表したものを、現地社会で英語を読める知人に渡しても、そもそも核実験についての情報がマーシャル諸島全土で共有されていないという現状があり、論文を読むことそのものが困難であった。マーシャル諸島現地では、次世代に核実験の経験を継承するプロジェクトが起こっていたが、まだまだ核実験についての体験が十分共有されるには至っていないことが分かった。

2. 研究の目的

こうしたことを背景にして、本研究は、マーシャル諸島における若者層が気軽にアクセスできる、インターネット上のアーカイブを制作することを目的とした。当初は、核実験被害についてのみをデジタルアーカイブに掲載する情報としていたが、温暖化による海面上昇も取り扱うこととした。マーシャル諸島の環境問題を総合的に扱うことで、幅広い層に対してデジタルアーカイブへの関心を広げることができるため、多くの参加者が見込まれるからである。このアーカイブ制作プロセスで、様々な層の人々が集うため、マーシャル諸島の学術機関、政府、研究者、一般の人のかかわりの場が生まれ、リソースの限られた社会におけるオープンサイエンスの意義を、具体的事例を通じて明らかにすることも目的であった。

3. 研究の方法

当初本研究では、井戸端会議などの語りの場に、被ばくや暮らしに関する写真、映像記録などを見ながら、被ばくについて語り合う場を創出し、デジタルアーカイブにアップロードする情報のテキスト化を考えていた。またAI技術で自動色付けを施した白黒写真を活用し、写真に関する情報を厚くし、アップロードすることも考えていた。しかしながらコロナ禍により、渡航が困難となり、遠隔ワークショップなどに変更した。このため、対面で調査やワークショップができたのは、一度だけであり、トラウマを語るための信頼関係を適切に醸成することができず、十分な情報が得られなかった。

4. 研究成果

本研究では、最終的にマーシャル諸島デジタルアーカイブを作成した。このデジタルアーカイブには、核実験、温暖化、日本統治、太平洋戦争、生活文化など幅広い情報が収められている。本プロジェクトは、マーシャル諸島政府、短期大学、NGO、マーシャル諸島の若い世代がかかわった。インタビューやフィールドワークを実施して情報を収集したが、マーシャル諸島に存在する米国の公文書や写真なども、アーカイブにアップロードした。これらの情報を集めるにあたって、環境や歴史に対する関心を高めるために、インタビューの手法の勉強会や白黒写真のカラー化などのワークショップを開催した。

5. 発表論文等

〔図書〕

中原聖乃「非核運動 マーシャル諸島の被ばく者からみた運動」石森大知・黒崎岳大編『ようこそオセアニア世界へ (シリーズ地域研究のすすめ)』昭和堂 2023年。

中原聖乃「強制移住先を「私の島」に」稲村哲也・山極寿一・清水展・阿部健一(編)『レジリエンス人類史 (地球研学術叢書)』京都大学学術出版会、2022年。

中原聖乃「マーシャル諸島における日本統治 文化の収奪」石森大知・丹羽典生編『太平洋諸島の歴史を知るための60章 (エリア・スタディーズ)』明石書店、2019年。

中原聖乃「生き続けるゴジラ」石森大知・丹羽典生編『太平洋諸島の歴史を知るための60章 (エリア・スタディーズ)』明石書店、2019年。

中原聖乃「石山徳子『犠牲区域』のアメリカ 核開発と先住民族」『社会と倫理』37: 112-116、2022年。

〔そのほか〕

中原聖乃「アドリアーナ・ペトリーナ著、粥川準二監修、森本麻衣子、若松文貴訳『曝された生 チェルノブイリ後の生物学的市民』」

『文化人類学』83(4) : 662-664、2019年。

〔口頭発表〕

Nakahara, Satoe 8 December 2022 “Radiation effects on the Rongelap people in the Marshall Islands,” Joint Meeting for the Annual Schull Institute and Annual Nuclear Security Summit at Georgetown.

中原聖乃「コロナ禍におけるマーシャル諸島環境問題アーカイブ共創手法の開発」福岡県環境教育学会第25回年会、2022年。

中原聖乃「マーシャル諸島核実験被害に関するウェブデジタルアーカイブ構築」課題解決型研究を推進するための超学際のあるり方に関する研究会～診断から治療へ～2020年。

Nakahara, Satoe 20 October 2019, “Making New Home and Rejecting Inherited Home: The Rongelap People Reconstruct Their Life form Atomic Testing” 京都歴史学工房.

Nakahara, Satoe 27 August 2019 “A study of the perceptions of nuclear disaster evacuees from Okuma in Fukushima” 19th International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) World Congress.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 中原聖乃
2. 発表標題 コロナ禍におけるマーシャル諸島環境問題アーカイブ共創手法の開発
3. 学会等名 福岡県環境教育学会第 25 回年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nakahara, Satoe,
2. 発表標題 A study of the perceptions of nuclear disaster evacuees from Okuma in Fukushima
3. 学会等名 19th International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中原聖乃
2. 発表標題 故郷を拒否して「故郷」を創るーマーシャル諸島における核実験とロンゲラップの人々の暮らしの再生
3. 学会等名 「マーシャルの人と暮らしと核実験と」ピキニふくしまプロジェクト、科研共催研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中原聖乃
2. 発表標題 マーシャル諸島を学ぶ～日本統治から核実験まで
3. 学会等名 「マーシャルの人と暮らしと核実験と」ピキニふくしまプロジェクト、科研共催研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中原聖乃・佐藤美香
2. 発表標題 対談「マーシャルの人と暮らしと核実験と」
3. 学会等名 「マーシャルの人と暮らしと核実験と」ピキニふくしまプロジェクト、科研共催研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中原聖乃
2. 発表標題 マーシャル諸島を知る
3. 学会等名 神奈川学園中等部講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 白黒写真の着彩ワークショップ
3. 学会等名 「マーシャルの人と暮らしと核実験と」ピキニふくしまプロジェクト、科研共催研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 石森大知・黒崎岳大(編)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 356
3. 書名 ようこそオセアニア世界へ (シリーズ地域研究のすすめ)	

1. 著者名 稲村 哲也、山極 壽一、清水 展、阿部 健一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 526
3. 書名 レジリエンス人類史	

1. 著者名 稲村 哲也、山極 壽一、清水 展、阿部 健一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 526
3. 書名 レジリエンス人類史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Marshall Islands Digital Archive https://marshall.reearth.io/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡邊 英徳 (Watanabe Hidenori) (00514085)	東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Digital-Archive-Workshop	開催年 2021年～2021年
------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------